

(日)

濱 大二郎

島根県出雲生まれ。出雲神話や民俗文化への関心を背景に、世界各地のトライバルカルチャー、ヴィンテージ文化、墨の表現などを横断しながら独自の絵画表現を展開している。

2005年にカナダ・トロントへ移住し、ヴィンテージディーラーとして活動する傍ら、映像制作コレクティブ「Exploding Motor Car」に参加。帰国後は京都を拠点に墨家・吉田礼子に師事し、本格的に制作を開始した。2018年よりオランダへ移住し、2026年より再び京都にも拠点を構える。現在、ヨーロッパと京都を往還しながら、絵画とライブパフォーマンスを発表している。

近年は、絵画を通して「無垢な状態」を立ち上げることを試みている。それは単なる純粋性ではなく、人間らしさや荒々しさ、現代との接続感覚、自然の気配などが混在した、中立的で未分化な状態でもある。

作品の中では、人間、Figure、菌類、細胞、風景の断片のようなイメージが混在し、有機物と無機物、人間性と匿名性、ミクロとマクロの境界が横断されている。その曖昧な状態を通して、鑑賞者自身の感覚や記憶、内面が投影される余白を生み出そうとしている。

また、空想的なイメージを描きながらも、そこには現実の身体感覚や人間の存在感が常に接続されている。絵画が歴史の中で、人が外部の存在へ求めるものを可視化してきたように、現代において、人の内側にある感覚や気配を視覚として立ち上げるために、日々作品と向き合っている。

#### 主な個展

- 「Coexistence」(SATO Gallery、パリ、フランス、2025)
- 「Iro Iro」(Sato gallery、オランダ・ロッテルダム、2024)
- 「THE MOMENT」(MARUEIDO JAPAN、東京、2023)
- 「Telepathy」(ワタリウム美術館 ライトシードギャラリー、東京、2022)
- 「MUTANT」(MARUEIDO JAPAN、東京、2021)
- 「MUTATION」(Sato gallery、フランス・パリ、2021)

#### 主なグループ展

- 「和を以て物語をなす」(瑞雲庵、京都、2023)
- 「Inner Friends」(OASE Rotterdam、オランダ・ロッテルダム、2023)
- 「スーパーマーケットアルター市場」(BnA Altermuseum/京都/2020)

#### 主なアートフェア出展

- 「Art The Hague」(SATO gallery ブース、デン・ハーグ、オランダ、2025)
- 「ART FAIR TOKYO」(MARUEIDO JAPAN booth、東京、2023・2022)
- 「ASIA NOW Paris Asian Art Fair」(Sato gallery ブース、フランス・パリ、2024・2022・2021・2020・2019)

(英)